



新雪と穂高連峰

2002.10/12 ~ 14

素晴らしき薬師岳&赤木沢

今まで二度ににわたり立山く槍の夏山縦走をしてきたが、その雄大な薬師岳の晴れの姿を踏んだことはなかった。しかし今回は三度目の正直とあってか山の神に受け入れてもらえてその素晴らしき全容を見るばかりか今までに走破してきた数々の北アルプスの山々の全容を観ることが出来て感無量である。それにも増して北アルプス随一の美沢で名高き赤木沢の沢登りのおまけつきである。下界での身体にこびりついたイヤなホコリが払拭されて気分爽快である。今回の目的はGWのオートルート山スキー縦走のエスケープルートの視察、または雪少なければここからの入山となる。



雲上の剣岳と薬師岳

メンバー

- 石野美輝郎 53才
- 大塚賢一 47才
- 木倉 博 40才
- 田代恵子 38才
- 岸本陽介 29才
- 大本誠一 23才



胸までつかり遡行



晴れ渡る薬師岳山頂



攀じる

12日 快晴 薬師岳登山

夜中の1時に姫路を出発し、大津SAで恵ちゃんと合流2:30、富山駅で石野さんと合流(東京から夜行バス)5:30。朝食を済ませて有峰湖の折立登山口へ8:00。装備変更

8:25 1310m 折立口スタート



有峰湖

雲一つない青空、湖から上がってくる爽やかな風、まわり一面の素晴らしい紅葉に包まれて気分は爽快である。しかし石野氏は今日は高々4時間の行程とあってか昨日の飲み会で飲み過ぎたせいかすぐれないようだ、また恵ちゃんは最近運動不足で軟弱気味、その反面最若手の大本は今回が初登山とあって

まるで山溪の本から出てきたようで上から下まですべてが新品である、また体力も下界で積んできているので申し分ない。彼とキクちゃんがなんとビールを10本以上、みんなで40本の担ぎ上げである。

太郎坂の登り口の慰霊塔に手を合わせて、紅葉を目のごちそうにしながら急登して行く。気温は低い樹林帯の中なので一向に風が抜けないために汗かきの恵ちゃんと陽介は顔面滝のようにになっている。

9:38 1871m 三角点 小休止

今までの樹林帯から開放され目の前には遙かかなたに鋭鋒剣岳、そして薬師岳の立派な避難小屋？が見える、北アルプスがこんなに晴れ渡って見えて全容が見渡せるのは今まで幾度なく訪れているが数少ない。

ここから一つ尾根を越えて石畳の道を進んでいくと2160m地点で尾根を南にトラバース気味に巻く、この辺りは雪多ければ要注意だ！。視界があれば北の岩井谷の上部に見える五光岩が目印になるのだが・・・。

10:35 2196m 五光岩ベンチ

視界は360度あるのだが、ドピーカン日和りなので容赦なく照りつける太陽にいささか恵ちゃんはバテ気味で強力キクちゃんが紐で引っ張って登っていく。陽介も初めての荷揚げとあって肩に食い込むザックに顔をしかめている。



アルプスのハイジのような太郎平

11:35 2310m 太郎平小屋

ゆっくりのペースで登ってきたつもりであるが、3時間10分で登ってきた。しかし大本は初登山で重装備であるにも関わらずたいしたもの为先が楽しみな新人生だ(^_^)。私と石野氏の後をピッタリとマークして「なんでこんなオヤジらが早いんや？」と思っている。

12:10 2294m 薬師峠 キャンプ場 昼食

今回は私のモンベル8人用テント12kgを4分割して上げてきてきているので周りのテントに比べてデカイことこの上ない、また中では立てる広さなので強風さえ吹かなければ快適そのものである。

13:10 薬師岳へ

昼食を済ませてサブザックに必用具を詰め込んで快晴の薬師岳へと登り始める。途中で重いビールを20本ほど沢に冷やす。この登山道は2回とも逆コースで通っているがいずれもガスの中で景色などほとんど



左に剣岳、右奥に白馬岳

見えなかった。しかしこの度は全てが見渡せておまけにサブザックとあってルンルンの気分で快調に登っていく、それも恵ちゃんを後押ししながら(もっとトレーニングせいよっ!)。途中で千葉から1人でテントを担いで来た直美ちゃんと合流。彼女はデカイ荷を背負って1人でトコトコと雲の平や

黒部五郎を歩くとっていた健脚レディー。

15:20 2926 m 薬師岳山頂

途中の遭難碑あたりで新雪を口に含んで今年も多く雪降りますようにと祈願する。キクちゃんと大本は飛ぶように登っていき我々を50分も待っていたと言っていた。

ここからの360度の展望は素晴らしい景色である、東方面に槍穂高連峰、後立山連峰の遙か彼方に白馬岳、北方面の立山連峰の剣岳、西方面は雲海に浮遊する白山、そして南に黒部五郎・笠ヶ岳・その遙か後

ろに乗鞍岳・御嶽山・・・いつまで観ていても見飽きない、幾度もビデオに収める。今年のお盆に来たときは、気温5度・強風・おまけに真っ白であった、今日のほうがはるかに暖かい。天気恵まれることはなんてありがたいことであろうか、雪山でもこんな感じであったらなんら心配することは



薬師如来に祈願



晩餐会

ないのに・・・。早速、祠の小さな釣鐘を鳴らして薬師如来像に手を合わせた。

17:10 薬師峠キャンプ場

薬師沢の水で冷やした極冷えのビールでカンパイ、肴はハムステーキやサラミ・・・、出るわ出るわで酒と肴だけで腹一杯である。しかし大本とキクちゃんは別腹で2食分も飯を食べていた。

外も冷えてきたので快適なテント内へと場所を移す、直美ちゃんも合流して広々としたテント内の窓から満天の星を見上げながら楽しい晩餐会が続く。しかし恵ちゃんは高山病とトレーニング不足がたまって頭痛で何も口に出来ずにシュラフにくるまったままであった。

13日 快晴 赤木沢遡行

5:00 起床

楽しい晩餐会で飲み過ぎたせいか、少し頭痛がする(~_~;)。酒飲みには困ったのもだ!。

テント内で朝食をしていると、隣テントの直美ちゃんがフル装備で雲

の平へのスタートを切った。我々もサブザックに沢装備と行動食を詰め込んで出発である。恵ちゃんも元気になったようだ。

8:20 1912 m 薬師沢小屋 装備変更

ここまでの行程は殆どが木道歩きで、今朝冷え込んだせいで霜が付いて滑りやすくて(*_*)マイッタ。



薬師小屋出合い



へつる



攀じる



沢にて6人



ナメ滝の連続

途中樹林帯に入るとカッパが住んでいるというカベツケガ原では谷川連峰の美しい笹平を思い出すようであった。小屋で彼女に追いついた、彼女はこれから吊り橋を渡っていくのだがグラグラと揺れる橋に立ち往生していたのが印象的であった。

この小屋は10日で冬季休業していた、この3連休は営業しても登山者が少ないのであろう、現に昨日、今日も登山道には数えるほどしか人がいない、この時期はもっと紅葉の美しい低山に入っているのだろう。

ここは薬師沢、黒部上ノ廊下、奥ノ廊下の三俣になっていてひじょうに美しいところである。まだ息も白いところに裸になって沢装備に装備変更する。水に手を浸けてみると思ったほどに冷たくなかったので一安心である。

8:50 黒部奥ノ廊下スタート

すごく澄み切った清流の右俣、左俣と浅瀬を渡瀬しながら赤木沢出合いまでルンルンで遡行して行く。大本は沢も初めてなので「なんやこれが沢登り？、おもしろー」と言っていたそうである。

9:55 赤木沢出合い

いきなり美しいナメ滝がどんどん現れて、大本は「すごい！、やっと沢らしくなってきた、おもしろーい」

の連発であった。彼はまだ氷ノ山の八木沢を知らない。

しかしこの赤木沢はホントに北アルプス随一と言われるだけあってものすごく美しい沢である。辺りはゆるやかな草原と針葉樹に囲まれて、空は青く、美沢と緑とスカイブルーの空が心をなごませてくれる。みんなそれぞれ歓声を上げて楽しみを体中で表現している。これは夏にもう一度来て水の中をどンドン遡行していったらもっと面白いことだろうと一同来ることを誓う。

11:20 30m大滝 小休止

爽やかな大自然のマイナスイオンを体一杯に浴びてのコーヒータ임はこれまた格別なおいしさである。この滝は右に高巻きをするとクリアできる。しかし何故この大滝の左の垂壁にハーケンで登っていないのかなあと思う、やはりこの素晴らしき大自然に傷跡をつけたくないからであろう。

12:30 装備変更

途中で二俣が二つほどあるが本流をどンドン登っていけば問題ない。沢水も枯れてきたころ登山装備に変更する。沢も終わりに近づくころには辺り一面は大草原と化し、この北アルプスのふところに抱かれて昼寝でもしたい気分になってくる。

13:50 2661m 北ノ俣岳



30mの大滝



赤木沢の最初の一滴



草原に出る



雲海に浮かぶ北ノ俣岳



沢を終えて

西方面は完全な雲海になっていた、その北端の遙か彼方に剣岳がそびえ立っている。

15:00 薬師峠キャンプ場

北ノ俣岳から太郎平に至る途中でガスが出て視界が悪くなったが、太郎小屋に着く頃には晴れてきた、と思うと今まで西方面にはびこっていた雲海が見事に無くなっていた。

今夜も明るい内から夜遅くまでの晩餐会となり担ぎ上げてきたアルコール類をみんなで全て平らげてしまった。この日の夜も満天の星空であった。

14日 快晴 下山日

6:00 起床

少々西側から雲がはびこってきているが今日も快晴である。

濡れて重くなったテントを撤収し下山。

10:30 折立駐車場

この3日で紅葉が一段と美しくなり辺り落ち葉のじゅうたんである。駐車場にたどり着くと紅葉の景色を収めようと観光客で一杯であった。下界の尖



紅葉に囲まれた折立

山温泉に浸かり山の疲れを癒して、富山で石野氏と別れる。

21:30 帰姫

遠出をすればいつも思うことだが、もう少し高速代が安くなればどれだけうれしいかと・・・。

高速代 18000、折立有料代 1200、ガス代 12000・・・単独で入山するにはあまりにも高すぎる。

PS.

今回は4時間ほどで現地入り、そしてサブザックで行動、おまけに最高の天候に恵まれてと申し分ない山行となり薬師如来に感謝するしだいである。初登山の大本はこれからが楽しみな一員である。晩秋を向かえた高山はいよいよ楽しみの白い季節に突入である。同日他のメンバーは四国の石槌山に登っていたが天候はガスで冴えなかったと言っていた。北アルプス万歳である。

山スキープランとしては、薬師岳から中央カールで一本遊び、太郎平小屋へと滑り込み幕営、太郎山、北俣へシール登行しトラバース気味に中俣へ滑り込み、五郎へ登り、肩から黒部源流の五郎沢へ滑降し三俣山荘へ登り、弥助沢へ滑り込みモミ沢を登り返し双六で幕営、西鎌尾根をアイゼン歩行し槍の肩から飛驒沢を滑り込んで新穂高で幕営。と、こんなプランを起てているがさてさてどうなることやら・・・すべては天候しだいである。